

サイトウ ケンタロウ  
齊藤 健太郎  
経済学部・教授  
Ph.D./ケンブリッジ大学

#### 主な研究業績

●「近代日本における労働市場統合と生活水準に関する一試論 — 熟練労働者と農業労働者の地域間賃金変動の分析、1899–1940 —」、『三田学会雑誌』97巻4号 (2005)

#### 【学会報告】

●“Labour Market Integration and British Engineers, 1856–1965”, Economic History Society Annual Conference, 3 April 2011, at Robinson College, University of Cambridge, UK.

●“Market Integration and Standards of Living in Modern Japan, 1899–1939”, The 5th World Cliometrics Congress, 8–11 July 2004, Venice International University.

#### 研究テーマ

## 市場統合と生活水準・生活危機に関する経済史的研究

#### 概要

われわれの生活を支える様々な財やサービスの多くは市場を通じて獲得される。一方、洋の東西を問わず、有史以来の産業化の過程の多くは市場領域の拡大・浸透の過程とみなすことができる。産業化と近代化とともに、私達の生活に及ぼす市場の影響はますます大きくなっているのである。市場システムがいかに働くかということが、私たちの生活水準にとって重要な要因なのである。この研究は、このような市場の発展と生活水準・生活危機にかんするものである。特に近代化の時期の日本と欧米の地域間市場統合を取り上げている。

市場が統合することにより、地域間における物価や賃金といった経済指標に安定した関係が形成されると予想される。ここから、地域間の市場が統合することにより、様々な生活資材へのアプローチが容易かつ安定的になるという仮説が得られる。つまり、市場統合の進展と生活水準の上昇が正の相関関係をもつという考えである。ここから、生活における様々な危機—労働条件の悪化のような社会的・個人的な危機から、飢饉や水害・地震のような自然による危機まで—においても、市場システムが効果的に働くかどうか、その克服にとっての大きな鍵であることが理解されるだろう。

この研究においては、近代日本および欧米の賃金・物価など市場に関わるデータを収集し、地域間市場統合と生活水準・生活危機との関連を統計的に分析している。生活水準・生活危機に関しては、疾病・衛生問題の専門家との連携も取りながら、より広範な議論の構築を目指している。

#### 応用分野

「環境」・「危機管理」